

バプテストになっていく

仙台教会の歴史シリーズ その15

小林孝男

1. 歴代牧師と専任牧師不在期間

仙台教会の歴代の牧師とその在任期間、そして前任者が退任してから後任者が就任するまでの間に生じた「専任牧師不在期間」は、次の通りです。

長崎直得 牧師（1953.2.22～1954.3→2 ヲ月の不在期間）¹

関谷定夫 牧師（1954.6.2～1957.3→不在期間無し）²

大沼 上 牧師（1957.4.1～1963.3→3 ヲ月の不在期間）³

天野五郎 牧師（1963.7.7～1984.7.31→4 ヲ月半の不在期間）⁴

金子純雄 牧師（1984.12.13～1998.3→12 ヲ月の不在期間）⁵

青木康弘 牧師（1999.4.4～2002.7.31→8 ヲ月の不在期間）⁶

山下誠也 牧師（2003.3.26～2010.5.30→15 ヲ月の不在期間）⁷

小河義伸 牧師（2011.9.4～2020.9.30→8 ヲ月）⁸

宇都宮毅 牧師（2021.6.1～現在）⁹

天野牧師以前のことに関しては資料が乏しく、専任牧師不在時の教会の様子は余り分かりませんが、牧師不在期間が短かったことや、グラント宣教師が恐らく強いリーダーシップをとっておられたと考えられますので、教会運営に関してはさほど支障はなかったのではと想像します。

2. グラント宣教師の休暇帰国の中で

但し1955年から56年にかけては、牧師ではなく宣教師不在の特別な年でしたので話は別です。当時の宣教団では、宣教師は5年日本で働いて1年間休暇帰国するというシステムをとっていました。それに従い1950年8月に来日したグラント宣教師が、第1回目の休暇帰国を得たのは1955年です。この1年間は、教会にとっても幼稚園にとっても試練の1年だったことでしょう。仙台教会はグラント宣教師の休暇帰国直前の3月に教会組織を行い¹⁰、前年4月には幼稚園を開園¹¹しています。いずれもグラント宣教師やキャサリン夫人が全面的に関わり、大きな責任を担い実現した事業です。その大黒柱が不在となって、教会員や幼稚園職員、そして特に前年

に赴任したばかりの関谷牧師は、大いに戸惑い苦労したはずですが、『献堂四十周年記念誌』に関谷牧師が「仙台教会草創時代の思い出」と題する一文を寄せてくださっていますが、その中でこのように述懐しています。「一番困ったことは、グラント先生が一年間休暇で帰米された時、小生が園長代理をしましたが、それまでグラント先生個人の経営だったので、急に経営資金が底をついてしまって、先生方の給与が保育料だけでは十分払うことができず、ベースアップの要求にも応じられなくなり、中に入った父母会の方々からも吊し上げにあったことです」。

この大変な状況を、具体的にどのように切り開いていったのかは不明ですが、宣教師に頼れない以上、自分たちで解決策を見つけていかなければなりません。教会員たちも必要に迫られ色々と知恵を寄せ合いながら、幼稚園のことや教会のことを真剣に考えざるを得なかったはずですが、そしてこの様なことを通しながら、自分たちの教会のことを自分たちの事柄として考え、自分たちがなすべきことをなすという姿勢が、少しずつ育つことになったのでしょう。

バプテストがどのような考えに立つ教会であるかを知識として知っていても、それだけでバプテスト教会になるものではありません。自分たちがその知識に従って実際に行動することによって、教会はバプテストになっていくのです。その意味で、宣教師の休暇帰国制度は、宣教師やその家族にとって大切であると同時に、宣教師に頼れなくなる教会にとっても、成長のための極めて重要で意味のある時間なのです。

3. バプテストになっていく

天野牧師以降の時代には、牧師交代時に比較的長期間の専任牧師不在期間が生じています。宣教師の休暇帰国期間同様、専任牧師不在期間は、教会にとっては試練の時であることは事実です。同時に信徒にとっては訓練と成長の時でもあることを、仙台教会の歴史を振り返ると強く感じます。専任牧師不在期間であっても、もちろん主日礼拝は途切れることなく守られ続けます。説教は宣教師や仙台教会の教会員、日本バプテスト連盟に連なる他教会の牧師や信徒、そして他教派の牧師や信徒にお願いすることになります。様々な方々の協力があったことを思うと感謝の思いが溢れますが、教会員になった初期の頃は、この様な時は「どこかの誰かが助けてくれる」のであり、自分が教会員として主体的に関わるべきことであるなどとは

思いも及びませんでした。天野牧師の辞任（1984）で生じた4カ月半の専任牧師不在期間の礼拝回数と、仙台教会の教会員が礼拝で説教を担当した回数から割合を出すと、教会員の説教担当率は16%であり、外部からの協力が当たり前のような感覚を、私を含め教会員たちは持っていたと言えるでしょう。

しかし、その後40年近くの間、私たちの中にバプテストとしての信仰の自覚が、少しずつ育まれてきたように思います。その証拠に金子牧師辞任（1998）後の12カ月間の専任牧師不在期間における教会員の説教担当率は55%、青木牧師辞任（2002）後の8ヶ月間は69%、山下牧師辞任（2010）後の15ヶ月間は83%、そして小河牧師辞任（2020）後の8ヶ月間は、主日礼拝のなんと96%を、仙台教会の教会員が説教を担当しました。

信徒一人ひとりが自ら聖書を読み、聖霊の導きのもとでの真摯な学びと祈りの中でみ言葉を解釈し、示された内容を信仰の言葉として自覚的に語たり、皆でそのみ言葉を分かち合いながら共に礼拝を守り教会を形成していく姿勢は、正にバプテストです。これからもバプテストとなる道を共に歩み、バプテストとして成長してまいります。

¹ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

² 同上、資料(1995/03/26_献堂四十周年記念誌) 5～6 頁

³ 資料(2015/10/18_60年のあゆみ) 1 頁

⁴ 週報(1963/07/07、1984/07/29)

⁵ 週報(1984/12/09、1998/03/29)

⁶ 週報(1999/03/28、04/04)、資料(2002/10/06_青木康弘前牧師辞任の経緯についての報告書)

⁷ 週報(2003/03/23、2010/05/30)

⁸ 週報(2011/09/04、2020/09/27)

⁹ 週報(2021/05/30)

¹⁰ 『主の息吹の中で』74 頁

¹¹ 資料(1954/04/13_新しい型の幼稚園_河北新報夕刊)